



サーバーのオペレーティング システムまたはハイパーバイザのインストール

- [オペレーティング システムまたはハイパーバイザのインストール方法 \(1 ページ\)](#)
- [KVM コンソール \(2 ページ\)](#)
- [PXE インストール サーバー \(2 ページ\)](#)
- [ホスト イメージ マッピング \(3 ページ\)](#)
- [MGF \(TEI\) インターフェイスによる ESX ネットワーク接続の設定 \(7 ページ\)](#)

オペレーティング システムまたはハイパーバイザのインストール方法

UCS E シリーズ M6 サーバーは、複数のオペレーティング システムとハイパーバイザをサポートします。インストールされるプラットフォームに関係なく、次のいずれかのツールを使用してサーバーにインストールできます。

- KVM コンソール
- PXE インストール サーバー
- ホスト イメージ マッピング



注意 仮想ドライブをマップするには 1 種類だけを使用する必要があります。たとえば、KVM コンソールまたは Host Image Mapping のいずれかを使用します。組み合わせて使用すると、サーバーが未定義の状態になります。

KVM コンソール

KVM コンソールはCIMCからアクセス可能なインターフェイスであり、サーバーへのキーボード、ビデオ、マウスの直接接続をエミュレートします。KVM コンソールを使用すると、リモートの場所からサーバーに接続できます。サーバーに物理的に接続された CD/DVD ドライブを使用する代わりに、KVM コンソールは仮想メディアを使用します。これは、仮想 CD/DVD ドライブにマップされる実際のディスクドライブまたはディスクイメージファイルです。次のいずれでも仮想ドライブにマップできます。

- お使いのコンピュータ上の CD/DVD
- コンピュータ上のディスク イメージ ファイル (ISO または IMG ファイル)
- コンピュータ上の USB フラッシュ ドライブ

KVM コンソールを使用して、サーバーにオペレーティングシステムまたはハイパーバイザをインストールし、次の作業を行うことができます。

- 起動中に F2 を押して、BIOS セットアップ メニューにアクセスします。
- 起動中に F8 を押して、CIMC 設定ユーティリティにアクセスします。

KVMコンソールを使用したオペレーティングシステムまたはハイパーバイザのインストール

KVM コンソールは GUI を介してのみ動作するため、CLI を使用してオペレーティングシステムまたはハイパーバイザをインストールすることはできません。KVM コンソールを使用してプラットフォームをインストールするには、『[GUI Configuration Guide for Cisco UCS E-Series Servers and the Cisco UCS E-Series Network Compute Engine](#)』の『[Installing an Operating System or Hypervisor Using the KVM Console](#)』セクションの説明に従ってください。

PXE インストール サーバー

Preboot Execution Environment (PXE) インストールサーバーを使用すると、クライアントはリモートの場所からオペレーティングシステムまたはハイパーバイザをブートおよびインストールできます。この方法を使用するには、PXE環境が設定されていて、VLAN（通常は専用のプロビジョニング VLAN）で使用できるようになっている必要があります。さらに、サーバーがネットワークからブートするように設定されている必要があります。サーバーは、ブートすると、PXE 要求をネットワーク経由で送信します。PXE インストールサーバーは、この要求に応答確認し、サーバーにオペレーティングシステムまたはハイパーバイザをインストールするイベントのシーケンスを開始します。

PXEサーバーは、インストールディスク、ディスクイメージ、またはスクリプトを使用して、オペレーティングシステムまたはハイパーバイザをインストールできます。また、独自のディ

スクイメージを使用して、プラットフォーム、追加コンポーネント、またはアプリケーションをインストールすることもできます。



- (注) PXE インストールは、多数のサーバーにプラットフォームをインストールする場合に効率の良い方法です。ただし、この方法を使用するには PXE 環境をセットアップする必要があることを考えると、他のインストール方法を使用する方が簡単な場合があります。

PXE インストールサーバーを使用したオペレーティングシステムまたはハイパーバイザのインストール

始める前に

VLAN 経由でサーバーに到達できることを確認します。

ステップ 1 ブート順を [PXE] に設定します。

ブート順の設定の詳細については、「[サーバーのブート順の設定](#)」の項を参照してください。

ステップ 2 サーバーをリブートします。

注意 共有 LOM インターフェイスを使用して CIMC にアクセスしている場合は、サーバーのリブートプロセス中に CIMC GUI を使用しないでください。CIMC GUI を使用すると、イーサネットポートに設定されていた IP アドレスがブート エージェントによってオーバーライドされるため、PXE のインストール中に GUI の接続が解除されます。

VLAN で PXE インストール サーバを使用できる場合は、サーバが再起動するとインストール プロセスが開始します。通常、PXE インストールは自動化されており、追加のユーザ入力を必要としません。残りのインストールプロセスについては、インストールしているオペレーティングシステムまたはハイパーバイザのインストールガイドを参照してください。

次のタスク

インストールが完了したら、LAN のブート順を元の設定にリセットします。

ホストイメージマッピング

ホストイメージマッピング機能を使用すると、ホストイメージのダウンロード、マッピング、マッピング解除、または削除を行うことができます。Linux や VMware などのホストイメージをリモート FTP または HTTP サーバーから CIMC 内部リポジトリにダウンロードし、そのイメージを E シリーズ M6 サーバーの USB コントローラの仮想ドライブにマッピングします。

イメージをマップした後は、イメージをマウントした仮想ドライブが最初のブートデバイスになるようにブート順序を設定してから、サーバーをリブートします。ホストイメージのファイル拡張子は必ず .iso になります。

ホストイメージのマッピング

始める前に

- admin 権限を持つユーザーとして CIMC にログインします。
- 適切なサードパーティからホスト イメージ ファイルを取得します。



(注) アップデートがすでに処理中であるときにイメージアップデートを開始すると、どちらのアップデートも失敗します。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	Server# scope host-image-mapping	remote install コマンドモードを開始します。
ステップ 2	Server /host-image-mapping # download-image {ftp ftps http https scp} server-ip-address path / filename [username username password password]	指定したリモートサーバーから CIMC 内部リポジトリにイメージをダウンロードします。ホストイメージのファイル拡張子は必ず .iso になります。リモートサーバーには、FTP、FTPS、SCP、HTTP、または HTTPS サーバーを使用できます。リモートサーバーでユーザー認証が必要な場合は、リモートサーバーのユーザー名とパスワードを追加する必要があります。 (注) イメージファイルがサイズ制限を超えると、エラーメッセージが表示されません。 (注) HTTP サーバーはユーザー認証をサポートしていません。FTP だけがユーザー認証をサポートしています。
ステップ 3	(オプション) Server /host-image-mapping # show detail	イメージダウンロードのステータスを表示します。
ステップ 4	Server /host-image-mapping # map-image image_name.iso	USB コントローラの仮想ドライブにイメージをマウントします。仮想ドライブには、次のいずれかを使用できます。

	コマンドまたはアクション	目的
		<ul style="list-style-type: none"> • HDD : ハード ディスク ドライブ • CDROM : ブート可能 CD-ROM
ステップ 5	(オプション) Server /host-image-mapping # show detail	ホスト イメージ マッピングのステータスを表示します。

例

次の例は、ホストイメージをマッピングする方法を示しています。

```
Server /host-image-mapping # download-image http 10.126.254.155 /download/image_name.iso
Username:
Password:
Image download has started.
Please check the status using "show detail".
Current Mapped Image: None
Host Image Status: "Downloading ..Please wait: 8.1%"
```

```
Server /host-image-mapping # show detail
Current Mapped Image: None
Host Image Status: Image Downloaded and Processed Successfully
Server /host-image-mapping # map-image
Please check the status using "show detail".
```

```
Server /host-image-mapping # show detail
Current Mapped Image: image_name.iso
Host Image Status: Image mapped successfully, set HDD as the Boot device.
Server /host-image-mapping #
```

次のタスク

1. イメージがインストールされている仮想ドライブが最初にブートされるデバイスになるように、ブート順を設定します。「[サーバーのブート順の設定](#)」を参照してください。
2. サーバーをリブートします。イメージにアンサー ファイルが含まれている場合は、オペレーティングシステムのインストールは自動化され、イメージがインストールされます。それ以外の場合は、インストール ウィザードが表示されます。ウィザードの手順に従って、イメージをインストールします。
3. オペレーティング システムまたはハイパーバイザをインストールした後にディスク ドライブが表示されない場合は、ドライバをインストールする必要があります。詳細については「[Firmware Management](#)」を参照してください。
4. インストールが完了したら、仮想メディアのブート順を元の設定にリセットします。

ホストイメージのマッピング解除

始める前に

admin 権限を持つユーザーとして CIMC にログインします。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	Server# scope host-image-mapping	remote install コマンド モードを開始します。
ステップ 2	Server /host-image-mapping # unmap-image	USB コントローラの仮想ドライブからイメージをマウント解除します。
ステップ 3	Server /host-image-mapping # show detail	(任意) ホストのイメージのマッピング解除に関するステータスを表示します。

例

次に、ホストイメージのマップを解除する例を示します。

```
Server /host-image-mapping # unmap-image
Please check the status using "show detail".
Server /host-image-mapping # show detail
Current Mapped Image: None
Host Image Status: Unmap Successful!!
Server /host-image-mapping #
```

ホストイメージの削除

始める前に

admin 権限を持つユーザーとして CIMC にログインします。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	Server# scope host-image-mapping	リモートのインストール モードを開始します。
ステップ 2	Server /host-image-mapping # delete-image	CIMC 内部リポジトリからイメージを削除します。

例

次に、ホストのイメージを削除する例を示します。

```
Server# scope host-image-mapping
Server /host-image-mapping # delete-image
```

MGF (TE1) インターフェイスによる ESX ネットワーク接続の設定

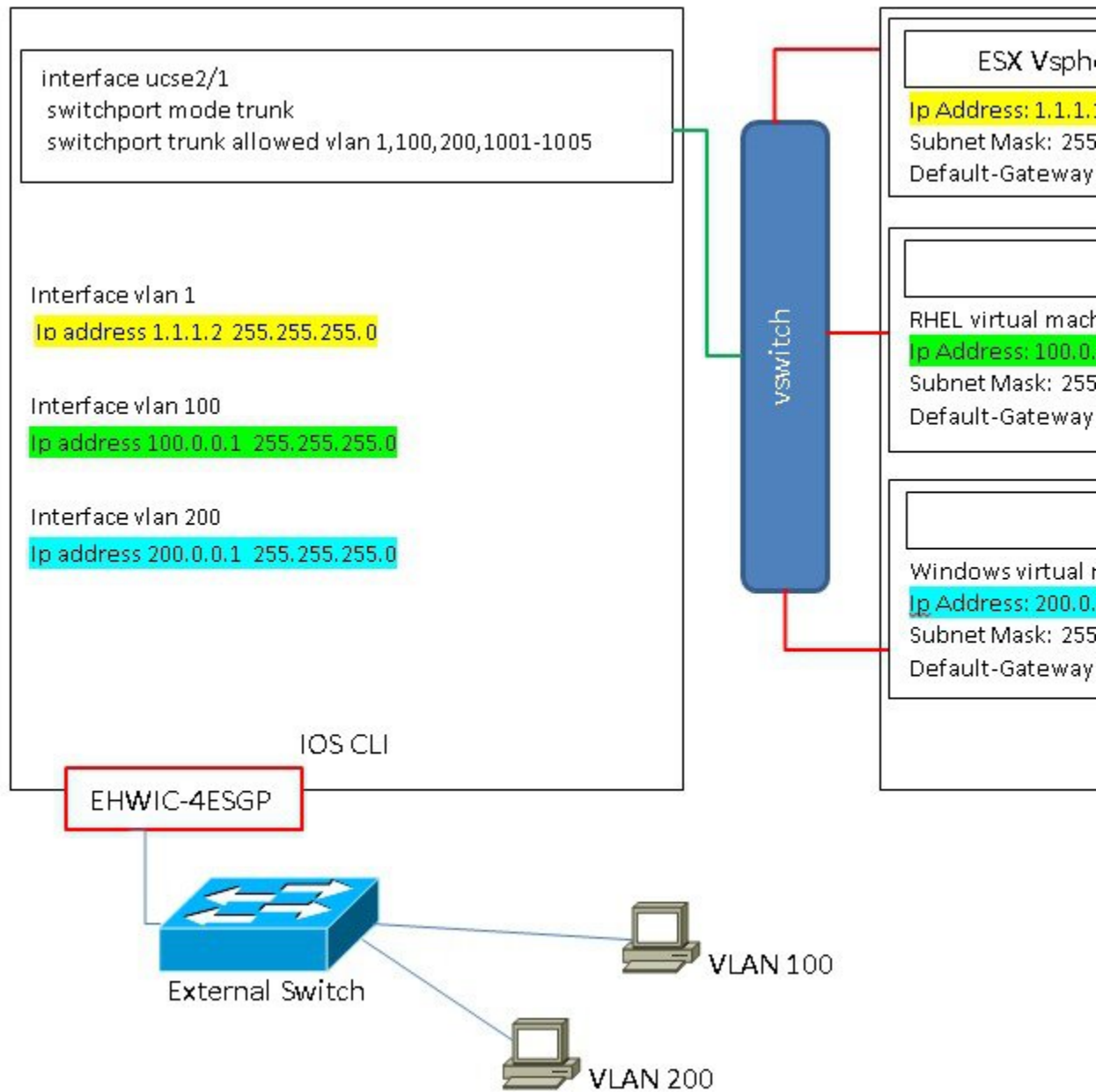
E シリーズ M6 サーバーでは、MGF (TE1) インターフェイスはバックプレーンを介してイーサネット スイッチ モジュールに内部接続します。この項では、UCS E シリーズ ホストと外部ネットワーク間の通信リンクの設定方法について説明します。

MGF (TE1) インターフェイスを介して ESX ネットワーク接続を設定できるシナリオは 2 つあります。

- L2 ネットワーキング : ホストと VM が同じサブネット内にある
- L3 ネットワーキング : ホストと VM が異なるネットワークにある
- L3 ネットワーキング : ホストと VM が同じネットワーク内にある

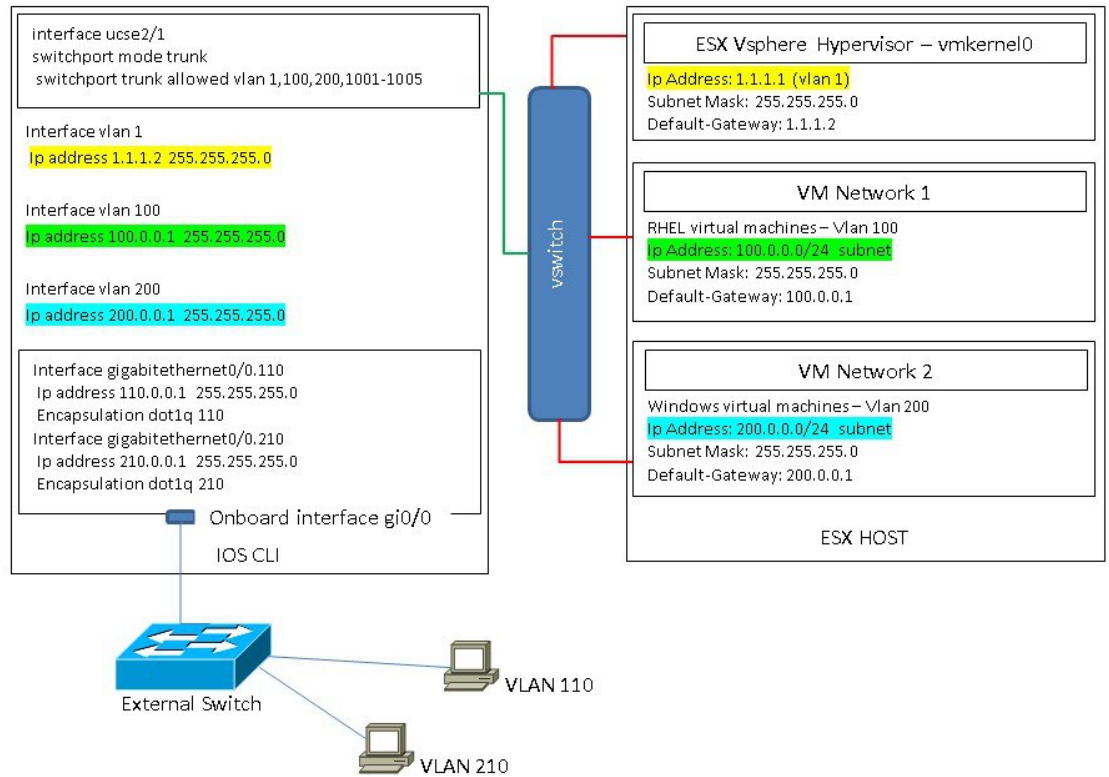
L2 ネットワーキング : ホストと VM が同じサブネット内にある

このシナリオでは、UCS E シリーズ M6 サーバーは VLAN 100 および 200 で VMS をホストしています。トラフィックはルータに入り、UCSE2/1/GE1 インターフェイスを通過し、EHWIC モジュールによって物理ホストに切り替わります。



L3 ネットワーキング : ホストと VM が異なるネットワークにある

このシナリオでは、VMはUCSE1/0/1経由でルータにトラフィックを送信することにより、異なるサブネット内のホストと通信します。ルータ上では、トラフィックはVLANインターフェイスに到達し、Catalyst 8300 シリーズ エッジプラットフォームによってルーティングされるL3を取得します。

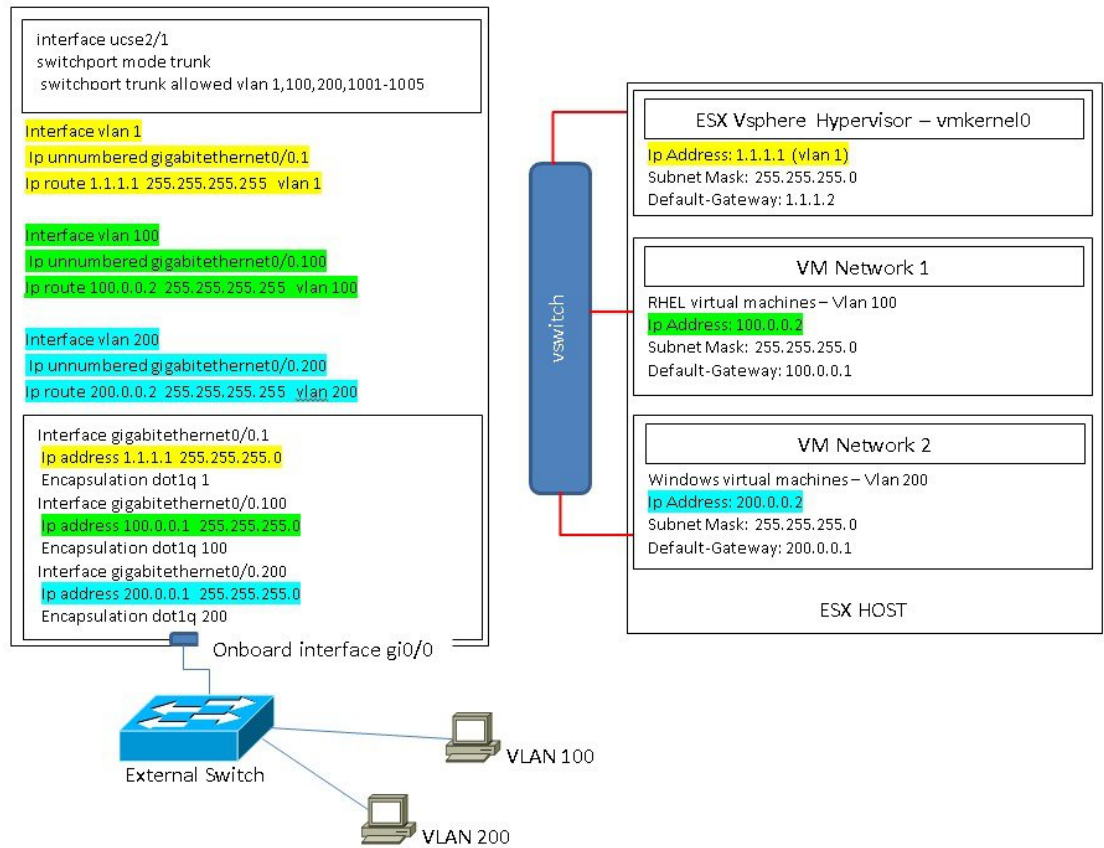


385410

L3 ネットワーキング：ホストと VM が同じネットワーク内にある

このシナリオでは、物理ホストはVMと同じサブネット内にあります。次の設定により物理ホストをオンボード L3 インターフェイスに接続し、VM と物理ホスト間の通信を有効にできます。

MGF (TE1) インターフェイスによる ESX ネットワーク接続の設定



385-409

翻訳について

このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。